

「自分自身のことを男性（女性）だと思ふ理由は」と聞かれたら、どのように答えますか。これは、先日参加した「LGBTQ」についての講演会（「人権教育セミナー」高知県教育センター主催）で、講師の大久保さんが最初に問いかけた内容です。今回は、この講演内容を紹介します。

「LGBTQ」とは、「レズビアン」や「ゲイ」（同性愛者）、「バイセクシュアル」（両性愛者）、「トランスジェンダー」（性別にとらわれない生き方の人）、「クエスチョニング」（性自認が分からない人）のような人のことです。「LGBTQ」の人の割合は、2018年の調査（電通ダイバーシティ・ラボ調べ）では8.9%（日本人の約11人に1人）で、統計的にはAB型や左利きの人と同じくらいの割合だそうです。それを考えるとLGBTQの人に知らず知らずのうちに出会っているかもしれません。

高知市で女性として生まれた大久保さんは、高知県内で体育教員を8年間されており、その間も性自認に対して葛藤され続けてきました。平成25年に戸籍を男性へと

変更され、大阪へ拠点を移し結婚もされています。

大久保さんは、これまでに誰にも相談できずひとり悩んだり、就職時にLGBTQだからと落とされたりなど、さまざまな辛い経験をされてきたそうです。「もしカミングアウト（自らの性的指向などを表明すること）をされたら、そのままのあなたでいいことを伝え、ほかの人には勝手に話さないことを約束してほしい」「知ることが大事。知らないから差別や偏見がうまれるのだ」と語っていました。また、最近では「パートナーシップ制度」を取り入れる自治体もあり、来年2月からは高知市でも導入される予定という朗報もあります。差別を無くすために、まずは知ることから始めませんか。

*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ

人権啓発広報委員会

☎880・6569

知っていますか？LGBTQのこと